

百年の夢

原初枝回顧展

—天折の少女歌人と幻の歌集—

こたつ
雪降り炬燵に入りて今いちど
おとぎ話をのう母上よ

明治45年1月29日 初枝最後の日記より

薄幸のヒロイン

原初枝(はらはつえ)は明治27年に佐賀県に生まれ、わずか19歳で夭折した少女歌人です。父の転勤にともない佐賀、東京、韓国を転々としながら、才気あふれる初枝は女学校時代を謳歌していました。しかし、16歳で病気に倒れ、退学。東京の大学で学ぶ夢も、お嫁に行く夢もついていたのです。

「少女の友」から「しのぶ草」へ

療養生活を送る初枝をなぐさめたのは、当時、少女たちの心をつかんだ雑誌「少女の友」でした。初枝は病床から短歌を投稿し、誌面を飾り続けます。しかし明治45年、19歳という若さで逝去。「少女の友」編集長の星野水裏は初枝の死を惜しみ、遺稿集「しのぶ草」の編集に乗り出しました。

少女の夢が、現代に花ひらく

初枝のふるさと富士町古湯では昭和61年に、地元の有志が子どもの情操教育のためにと、富士小学校の校庭に歌碑を建立します。しかし、いかなる手をつくしても「しのぶ草」は発見されず、歴史の中に埋もれつつありました。

その“幻の詩集”がついに富士館へ—
百年の時を経て、現代によみがえります。

平成23年

会期 10月19日(火)～3月30日(水)
10時～18時(日曜は17時まで) 月曜日休館

会場 佐賀市立図書館 富士館
佐賀市富士町古湯2624 (フォレストふじ)

お問い合わせは富士館へTel0952-58-3590

